

2008年のねじ産業に関する報告

Report for Fastener Industry in 2008

2008年11月

Nov. / 2008

【IB】イワタボルト®

SOFI Series —————
Report for Fastener Industry in 2008
15, November, 2008
Planning Section, IWATA BOLT Co., Ltd.

SOFIシリーズ —————
2008年のねじ産業に関する報告
2008年11月15日
編集・作成 イワタボルト(株)社長室

2008年のねじ産業に関する報告

2008年11月

はじめに

2008年の我が国のねじ産業はどのように推移し年末を締め括るのでしょうか。昨年の米国サブプライムローン問題に端を発した金融危機はじわじわと影響を及ぼし遂に世界経済全体にまで深刻な打撃を与える様相となってきています。米大手証券会社が相次いで破綻し、この震源地である米国では自動車メーカービッグスリーの大幅なリストラと再編問題がクローズアップされ、原油高騰も背景に個人消費が落ち込んで景況の先行き見通しもきわめて不透明な状況となっているといえます。年央に至ってそうした問題が一気に表面化してきましたが、我が国の対米輸出も年後半に入って減少に転じている状況です。

しかしオリンピックが開催された中国や中東、ロシアなど新興国向け輸出は増加が続いたことで我が国の自動車生産も2008年上半期は前年同期比6%増の600万台を超えるなど今年前半の産業動向は堅調な推移をみせていたといえます。だが、ここにきて高炉メーカーは粗鋼生産の減産を打ち出しており、造船向けの受注残や大型建機などの需要はかかえているものの建築部門ほかでの需要見込みは期待できないとの見方から減産の方向を明らかにしています。一挙に円高ドル安が進み為替相場も激変をみせており、今年後半から年明後の動向がどう推移していくのかが注視されるどころです。

まず、我が国の産業活動の実態を表わす鉱工業生産指数（2005年＝100、季節調整済み）を経済産業省資料でみると、2008年第1期（1～3月）は108.4、第2期（4～6月）は107.5、7月は108.3、8月は104.5と推移しています。第1期は前年同期比2.3%増、第2期は前年同期比1.0%増、そして7月は前年同月比2.4%増、8月は前年同月比6.9%減と推移。製造工業生産予測調査によると9月は上昇し、10月は低下の予測で総じて生産は弱含みで推移しているとの判断です。

今度の世界金融危機は過大な資金の投機が根幹になっているといえますが、ようやく原油価格も下落をみせはじめ、またニッケルやクロム価格も天井知らずの高騰から値下げに反転するなど情勢は変化を示しています。激しく変動する世界経済ですが、投機をもって世界の経済が回っていく訳ではないでしょうし、その基盤には

しっかりとした ” ものづくり ” が今後も行われていかなければならないと言えるのではないのでしょうか。

こうした目まぐるしい激変の中にあっても、イワタボルトは国内および海外の両面にわたって確固とした基盤づくりに今年も引き続き積極的に取り組んできたところです。今後も巨大市場のひとつであることに変わりはない米国では、当社の現地法人である IWATA BOLT USA INC. がオハイオ州フェアフィールド市の新工場建設予定地の鍬入れ式を3月に行い、今年末の竣工を目標に建設が進められています(下の完成予想図)。また IWATA BOLT (THAILAND) CO. LTD. も業容の拡大に伴い従来の2倍の倉庫能力のある2016平方メートル規模の新社屋に移転し、中国の岩田螺絲(深圳)有限公司は6月に最新鋭の熱処理設備一式を導入して自社工場による一層の品質の安定と供給体制の拡充強化を図りました。何れもそれぞれの地域において現地に密着した特色のある事業を展開していくのが狙いです。合わせて昨年に第5期計画で最新鋭めっき設備を導入し一貫生産体制を敷いた国内生産拠点の栃木工場も、引き続いて生産設備の最新機種を導入等を推進し、お得意先のさまざまなニーズにお応えしています。



IWATA BOLT USA INC. 新工場
の完成予想図

< 1 > ねじの生産と出荷

初めに、先に発表された平成18年（2006年）工業統計表をもとにねじ製品の出荷状況をみると、平成18年の4人以上事業所におけるねじ製品出荷額は9,594億600万円で前年比8.2%増を示しました。4年連続しての増加で、10年振りの9千億円台回復の出荷額となりました。

また、平成19年（2007年）の(社)日本ねじ工業協会ねじ生産実績調査によると、同年のボルト・ナット・小ねじ（タッピンねじを含む）・木ねじの調査対象4品目の合計は9,005億4,100万円で前年比8.2%増となり、6年連続で増加しました。今年に入ってから状況では、平成20年（2008年）1～6月半年間のねじ生産実績が4,680億2,400万円となり、前年同期比で6.1%増を示しています。

しかし、今年下期に入ってから受注が落ち込んでいる状況もでており、また増伸を続けてきたねじ輸出が下期はどう推移していくのかなどにより、年間ベースの生産額には変化があらわれてくることも予測されるところです。

ねじ生産出荷の概況はこのような動向を示していますが、次にその内容を詳しくみることにします。

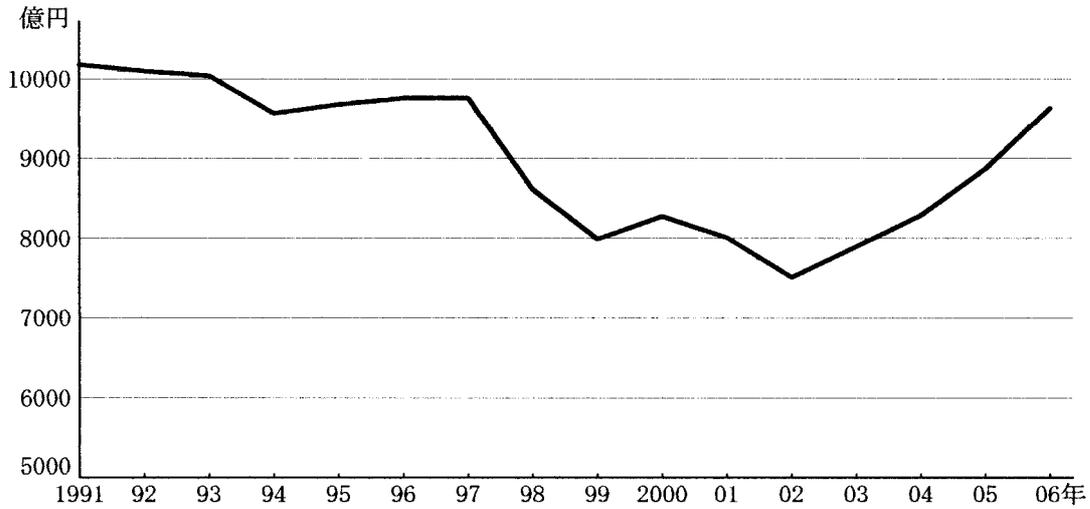
我が国ねじ産業の全体的な動向を示している工業統計表・平成18年（2006年）版では、ねじ産業（製造業）の従業員3人以下を含む全事業所における同年のねじ出荷額は9,806億9,900万円で、前年比7.7%増となりました。事業所数も4,074事業所で前年比3.4%増え、また従業員数も44,512人と同3.1%増加しました。この全事業所でみる傾向としては、事業所数は前年比増となりましたが年々減少の傾向を辿っており、これに対して従業員数は4年連続で増加、ねじ出荷額も4年連続の増加で、ねじ産業全体では上向きで推移しています（表2）。

次いで、工業統計表のベースとなっている4人以上事業所における状況をみると事業所数では前年比6.8%減の1,802事業所、従業員数は同2.1%増の40,038人、出荷額は前述のとおり同8.2%増の9,594億600万円、付加価値額も同1.9%増の4,121億7,500万円となりました（付加価値額は、生産額から消費税を除く内国消費税額と推計消費税額および原材料使用額等と減価償却額を差引いたものです）。

この4人以上事業所における2006年の状況は、事業所数は前年比減少となりましたが、従業員数、出荷額、付加価値額ともにプラスを示し、この結果、1事業所当りの出荷高は前年比16.0%増の5億3,240万円となり、従業員1人当りの出荷高も同5.9%増の2,396万円となっています。また、総出荷額のうち4人以上事業所が占める出荷額の割合についても97.8%となり、前年の97.4%から0.4%ポイント高まりました。なお、この比率は平成15年は97.0%、同16年は97.2%でしたから、この

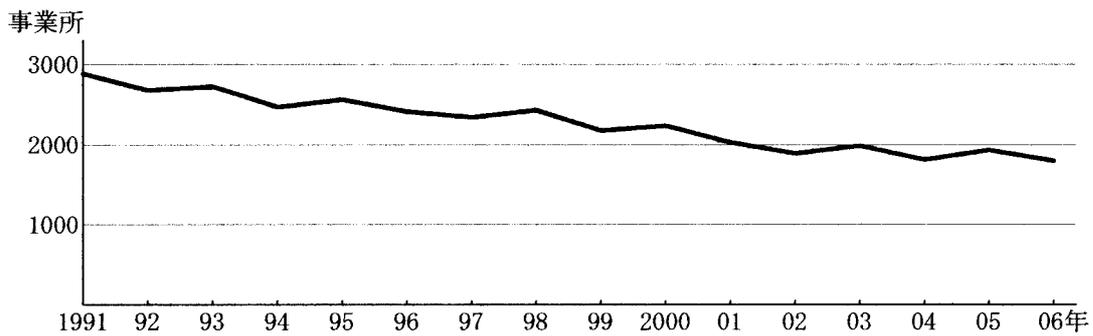
ねじ出荷額の推移：4人以上事業所（1991年がピーク）

グラフ 1



事業所数の推移：4人以上事業所（1991年以降）

グラフ 2



従業員の推移：4人以上事業所（1991年以降）

グラフ 3

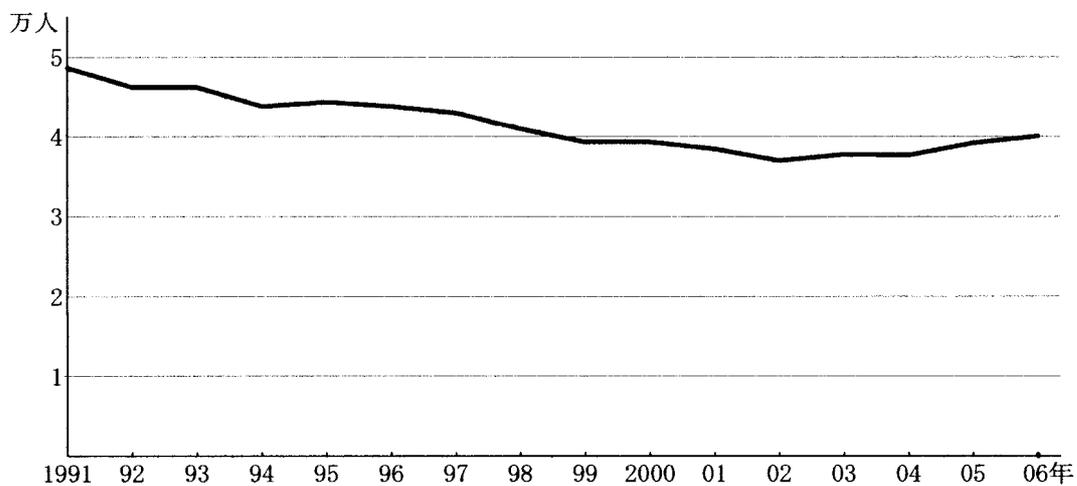


表1 ねじ産業5年間の推移（従業員4名以上，工業統計表産業編より）（出荷額・付加価値額＝百万円）

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
事業所数 %	1,892 100.0	1,989 105.1	1,816 96.0	1,933 102.2	1,802 95.2
従業員数 %	36,971 100.0	37,774 102.2	37,684 101.9	39,209 106.1	40,038 108.3
出荷額 %	751,656 100.0	789,992 105.1	828,591 110.2	887,035 118.0	959,406 127.6
付加価値額 %	350,017 100.0	377,984 108.0	388,536 111.0	404,339 115.5	412,175 117.8

表2 ねじ産業5年間の推移（全事業所，同産業編より）（出荷額＝百万円）

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
事業所数 %	4,482 100.0	4,224 94.2	4,104 91.6	3,939 87.9	4,074 90.9
従業員数 %	41,764 100.0	42,200 101.0	42,204 101.1	43,191 103.4	44,512 106.6
出荷額 %	773,540 100.0	814,245 105.3	852,112 110.2	910,693 117.7	980,699 126.8

表3 ねじ産業の推移（出荷額ピークの1991年以降，4人以上事業所）

年	事業所数	%	従業員数	%	出荷額(百万円)	%
1991	2,882	100.0	48,653	100.0	1,179,713	100.0
92	2,676	92.9	46,236	95.0	1,100,448	93.3
93	2,720	94.4	46,212	95.0	1,033,690	87.6
94	2,465	85.5	43,819	90.1	957,742	81.2
95	2,561	88.9	44,361	91.2	968,054	82.1
96	2,410	83.6	43,962	90.4	975,860	82.7
97	2,343	81.3	43,019	88.4	976,019	82.7
98	2,429	84.3	40,971	84.2	861,145	73.0
99	2,176	75.5	39,298	80.8	798,717	67.7
00	2,239	77.7	39,634	81.5	826,796	70.1
01	2,028	70.4	38,451	79.0	800,947	67.9
02	1,892	65.6	36,971	76.0	751,656	63.7
03	1,989	69.0	37,774	77.6	789,992	67.0
04	1,816	63.0	37,684	77.6	828,591	70.2
05	1,933	67.1	39,209	80.6	887,035	75.2
06	1,802	62.5	40,038	82.3	959,406	81.3

表4 品種別出荷状況（従業員4名以上，工業統計表品目編による）

（出荷量トン，出荷額百万円）

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	
ボルト・ナット	量 %	1,982,388 100.0	2,018,760 101.8	2,001,809 101.0	2,060,188 103.9	2,185,470 110.2
	額 %	518,846 100.0	539,311 103.9	557,609 107.5	600,906 115.8	658,978 127.0
小ねじ・木ねじ	量 %	214,084 100.0	228,010 106.5	211,652 98.9	215,738 100.8	281,610 131.5
	額 %	80,387 100.0	87,244 108.5	89,183 110.9	94,011 116.9	99,085 123.3
リベット	量 %	71,381 100.0	72,979 102.2	72,944 102.2	72,824 102.0	70,834 99.2
	額 %	24,024 100.0	25,510 106.2	26,761 111.4	29,095 121.1	29,434 122.5
座金	量 %					
	額 %	21,682 100.0	26,424 121.9	28,802 132.8	30,962 142.8	30,004 138.4
関連製品	量 %					
	額 %	97,413 100.0	103,243 106.0	109,735 112.6	103,795 106.6	112,636 115.6
合計	量 %	2,267,853 100.0	2,319,749 102.3	2,286,405 100.8	2,348,750 103.6	2,537,914 111.9
	額 %	742,352 100.0	781,732 105.3	812,090 109.4	858,769 115.7	930,137 125.3

3年間は年々高まっている傾向にあります（表1）。

続いて，従業員4人以上事業所における品目別の出荷状況をみると，（表4）のようになっています。ボルト・ナットは数量で前年比6.1%増の218万5,470トン，金額では同9.7%増の6,589億7,800万円に，小ねじ・木ねじは数量で30.5%増と大幅な伸びを示して28万1,610トン，金額は5.4%増の990億8,500万円，リベットは数量で2.7%減の7万834トン，金額では1.2%増の294億3,400万円，数量統計のないねじ関連製品が金額で8.5%増の1,126億3,600万円，同様に座金類は3.1%減の300億400万円という状況。これらの合計で，数量では関連製品と座金は含まれないが253万7,914トンで前年比8.1%増，金額は全品目9,301億3,700万円です。前年比8.3%増

表5 ねじの年別生産推移

単位：生産量トン，出荷額百万円（社）日本ねじ工業協会資料より）

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	07 / 06%	
ボルト	量	1,523,807	1,669,042	1,743,127	1,871,084	1,984,994	+6.1
	額	326,199	357,064	393,710	441,592	481,692	+9.1
ナット	量	795,995	851,978	902,312	944,229	1,026,422	+8.7
	額	222,536	239,551	263,610	283,446	305,557	+7.8
小ねじ	量	279,334	291,969	305,284	303,108	318,167	+5.0
	額	96,270	102,693	105,443	103,842	110,127	+6.1
木ねじ	量	6,640	6,641	6,628	6,566	5,905	-10.1
	額	2,915	3,021	3,110	3,043	3,165	+4.0
合計	量	2,605,776	2,819,630	2,957,351	3,124,987	3,335,488	+6.7
	額	647,920	702,329	765,873	831,923	900,541	+8.2

表6 2008年1～6月の月別ねじ生産推移

単位：同上（社）日本ねじ工業協会資料より）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	1～6月	
ボルト	量	147,186	171,392	170,392	171,986	159,445	174,896	995,297
	額	37,680	44,048	43,791	42,997	40,180	43,724	252,420
ナット	量	83,017	92,232	96,491	91,849	86,769	94,254	544,612
	額	24,739	27,301	27,789	26,085	24,729	26,957	157,600
小ねじ	量	24,894	27,642	27,074	26,174	24,443	26,935	157,162
	額	8,812	9,841	9,882	9,449	8,922	9,508	56,414
木ねじ	量	429	482	517	522	546	517	3,013
	額	229	258	262	275	289	277	1,590
合計	量	255,526	291,748	294,474	290,531	271,203	296,602	1,700,084
	額	71,460	81,448	81,724	78,806	74,120	80,466	468,024

となっています。

小ねじ・木ねじの出荷数量が前年比30%超の大幅増となっていますが、木ねじはねじ生産全体における比率も極めて小さい品目となっていますから、タッピンねじを含めた各種小ねじ類の生産が活発に進められたものと思われます。

なお、出荷額で（表1）と（表4）の金額が一致していないのは、表1の出荷額には製造品出荷額に加工賃収入額、製造工程からでたくずなどの出荷額およびその

他の収入額が含まれているため。消費税および内国消費税を含んでいます。

続く平成19年（2007年）の動向を知りたいところですが工業統計表は例年2年遅れの発行のため予測の域をでませんが、前記にもふれたように(社)日本ねじ工業協会のねじ4品目の生産実績調査がありますので、これをもとにみることにします。

2007年の我が国工業の実態（全体の動向）については、この10月10日に平成19年工業統計速報が公表され、(1)事業所数は2年ぶりの減少で140,795事業所（前年は136,917事業所）となり、従業者数は2年連続の増加で前年比0.6%増の778万2,701人、(2)製造品出荷額等は327兆円（前年は306兆円）、付加価値額も104兆円（同103兆円）で、製造品出荷額では輸送用機械、一般機械、化学、鉄鋼、電子部品、デバイスなどが上位を占めていることが速報されました（何れも従業者10人以上の製造事業所についてとりまとめたもの）。

2007年工業の動向は事業所数は減少しましたが、工業界全体では積極的な生産活動が展開されたことが製造品出荷額によりうかがえます。

このため2007年のねじ生産も（表5）にみるようにボルト・ナット、小ねじ（タッピンねじを含む）、木ねじ4品目合計は前年比6.7%増の333万5,488トン、金額も同8.2%増の9,005億4,100万円と伸びました。数量および金額ともに6年連続の増加となり、2年続けての300万トン台を示し、またこの4品目合計の生産額では初めて9,000億円台に乗りました。

品目別の生産状況では、ボルトが数量で前年比6.1%増の198万4,994トン、金額は同9.1%増の4,816億9,200万円、ナットが8.7%増の102万6,422トン、金額は7.8%増の3,055億5,700万円、タッピンねじを含む小ねじが5.0%増の31万8,167トン、金額は6.1%増の1,101億2,700万円、木ねじは数量で減少し金額増加で、10.1%減の5,905トン、金額4.0%増の31億6,500万円となっています。

2008年に入ってからこの4品目の生産動向では、08年1～6月実績で前年同期比3.8%増の170万84トン、金額では6.1%増の4,680億2,400万円という状況で数量・金額ともに増加しています。今年上半期は、自動車の生産が前年同期に比べ34万台強の増加となったことや、ねじ輸出も米国向けは減少したものの中国や東南アジア諸国など向けが増加したことで堅調に推移してきたといえます。

この上期生産の品目別の状況は、ボルトが数量で前年同期比2.0%増の99万5,297トン、金額では7.5%増の2,524億2,000万円、ナットが8.9%増の54万4,612トン、金額は5.0%増の1,576億円、小ねじ（タッピンねじを含む）が1.3%減の15万7,162トン、金額は3.4%増の564億1,400万円、木ねじは2.8%減の3,013トン、金額も2.8%減の15億9,000万円となっています。中国と台湾に移行した木ねじの生産減少はともかくとして、タッピンねじを含む小ねじ類が生産数量で1.3%減ながら前年同期比マイナスを示しました。タッピンねじは今年上期の輸出が減少しており、この

影響もあるものとみられます。

< 2 > ね じ の 輸 出

我が国のねじ輸出は生産額の2割余を占めており、工業統計表のねじ出荷額（生産額）と貿易統計のねじ輸出額の割合でみると、2004年は21.6%、2005年は22.8%、2006年は23.9%と推移し、このところ生産に対する輸出比率が少しずつですが高まっている傾向にあります。これは自動車や家電メーカーなどの海外進出による現地生産組立向けのねじ輸出が増えていることが、その理由のひとつにあげられます。例えば、タイ向けねじ輸出は下記に示すように増伸しており、2003年の15,000トン余から、05年は31,000トン強、07年には35,000トン強と増え続けていますが、同国には日本から自動車、家電、機械メーカーなどの企業が数多く進出し生産を行っています。

2007年のねじ輸出も前年比数量で12.9%増の30万767トン、輸出額では同15.6%増の2,575億6,700万円と2桁増の大幅な伸びを示しました。輸出数量では1985年（昭和60年）の30万5,588トン以来、22年振りの30万トン台となりました。主要な米国向けは微増にとどまりましたが、中国をはじめタイ、インドネシア、欧州、それにメキシコやブラジル、インド向けなどの輸出が増伸し、国別では、米国に次いで第二の輸出先国となっている中国向けが前年比数量で3割強の伸びになっています。また、2007年のねじ輸出実績は前年比数量で12.9%増となりましたが、これは2004年の同14.4%増以来の高い2桁増です。ちなみに2005年は同9.8%増、2006年は同6.8%増と推移しています。

まず主要国別の輸出状況（数量ベース、表8）をみると、主力の米国向けは0.8%微増の96,999トンですが、第二位の中国向けは34.3%増の48,008トンとなり2006年に次いで前年比1万トンを超える伸びとなり、第三位のタイ向けも16.0%増の35,366トンを輸出、続いてインドネシアとメキシコ向けも1万トン超の輸出先国となり、インドネシア向けは42.5%増の12,509トンと大幅増、メキシコ向けも11.3%増で10,878トンの輸出となりました。さらに、ブラジル、インド、オーストリア向けも増加して何れも4,000トンを超える輸出先となり、また欧州向けも19.5%増の49,290トンが輸出されました。これに対してマレーシア、台湾、フィリピン、カナダ向けなどが減少という状況です。

次いで品目別の輸出では、ステンレスナットが減少しましたが、鉄鋼製ボルト、鉄鋼製ナットが2桁増を示すなど主要ねじ品目は増伸しています。

鉄鋼製ボルトは数量で17.5%増の165,289トン、金額は20.9%増の1,034億8,700万円となり同品目は初めて1,000億円の輸出商品となっています。鉄鋼製ナットは

表7 ねじの輸出（品目別）

単位：重量トン，金額百万円（貿易統計より）

		2006年	2007年	増減%	2008 .1～6
鉄鋼製ボルト	重量	140,611.9	165,289.2	+17.5	87,331.9
	金額	85,589.1	103,487.8	+20.9	53,886.9
ステンレスボルト	重量	2,608.0	3,078.7	+18.0	1,695.1
	金額	3,667.3	4,781.8	+30.4	2,297.4
鉄鋼製ナット	重量	61,108.2	69,884.4	+14.4	37,112.8
	金額	47,040.9	56,024.4	+19.1	28,778.5
ステンレスナット	重量	1,457.3	962.5	-34.0	372.1
	金額	2,403.2	2,384.6	-0.8	1,108.8
鉄鋼製タッピンねじ	重量	11,012.9	11,564.0	+5.0	5,575.6
	金額	10,797.2	11,987.3	+11.0	5,971.5
鉄鋼製木ねじ	重量	192.0	217.6	+13.3	131.4
	金額	280.7	326.4	+16.3	204.1
鉄鋼製その他のねじ	重量	17,812.8	18,582.4	+4.3	9,397.7
	金額	31,483.1	34,443.7	+9.4	16,774.5
鉄鋼製その他ねじ付品	重量	2,098.5	2,485.1	+18.4	1,352.1
	金額	2,166.3	2,366.2	+9.2	1,102.8
鉄鋼製リベット	重量	2,958.8	3,119.0	+5.4	1,679.3
	金額	4,123.8	4,717.0	+14.4	2,276.8
鉄鋼製ねじ無製品	重量	7,928.7	7,791.0	-1.7	4,385.9
	金額	10,301.0	11,152.1	+8.3	5,976.3
鉄鋼製コーチねじ	重量	376.8	92.6	-75.4	23.0
	金額	774.4	212.2	-72.6	52.5
鉄鋼製スクリーフック	重量	64.4	29.2	-54.7	24.8
	金額	89.6	45.9	-48.8	34.2
鉄鋼製ばね座金	重量	1,927.2	1,828.5	-5.1	952.2
	金額	2,986.8	2,905.2	-2.7	1,389.5
鉄鋼製平座金	重量	14,432.5	14,316.6	-0.8	7,163.3
	金額	17,645.7	19,207.5	+8.9	9,273.8
鉄鋼製コッタピン	重量	744.3	703.0	-5.5	461.1
	金額	1,223.2	1,350.4	+10.4	862.2
銅製品	重量	1,030.5	823.8	-20.1	325.8
	金額	2,191.3	2,175.1	-0.7	922.3
総計	重量	266,364.8	300,767.6	+12.9	157,984.1
	金額	222,763.6	257,567.6	+15.6	130,822.6

14.4%増の69,884トン，金額は19.1%増の560億2,400万円と増加。

素材値上げが続いたステンレスボルト・ナットは，ステンレスボルトが18.0%増の3,078トン，金額は30.4%増の47億8,100万円と金額の伸びが大きくなっています。しかしステンレスナットは34.0%減の962トン，金額も0.8%微減の23億8,400万円

表8 ねじの輸出（主要国別，銅製品を除く）

単位：トン（貿易統計より）

	2006年	2007年	07/06増減%	国別比率	2008.1~6
総計	265,334.3	299,943.8	+13.0	100.0	157,658.3
米 国	96,216.9	96,999.6	+0.8	32.3	45,209.4
欧 州	41,241.8	49,290.8	+19.5	16.4	25,116.3
韓 国	1,950.2	2,292.4	+17.5	0.8	1,814.8
中 国	35,741.1	48,008.0	+34.3	16.0	29,631.5
台 湾	4,569.5	4,354.0	-4.7	1.5	1,933.1
香 港	3,124.1	3,050.8	-2.3	1.0	1,563.3
タ イ	30,477.7	35,366.7	+16.0	11.8	19,146.4
シンガポール	2,137.7	1,986.8	-7.1	0.7	1,150.7
マレーシア	5,331.0	5,284.5	-0.9	1.8	2,751.5
インドネシア	8,776.5	12,509.5	+42.5	4.2	8,283.8
フィリピン	3,536.8	3,368.4	-4.8	1.1	1,835.1
カナダ	4,295.5	4,232.6	-1.5	1.4	1,910.3
メキシコ	9,773.9	10,878.3	+11.3	3.6	4,708.5
ブラジル	3,447.6	4,705.7	+36.5	1.6	2,967.3
インド	3,244.3	4,067.9	+25.4	1.4	2,841.5
オーストラリア	3,324.8	4,345.0	+30.7	1.4	2,086.3
他	8,144.9	9,202.8	+13.0	3.1	4,708.5

表9 ねじ輸出5年間の推移

（貿易統計より）

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
数量(トン)	198,619.7	227,150.9	249,443.0	266,364.8	300,767.6
%	100.0	114.4	125.6	134.1	151.4
金額(百万円)	155,307.7	175,215.5	195,393.4	222,763.6	257,567.6
%	100.0	112.8	125.8	143.4	165.8

に。この主因はメキシコ向けのステンレスナットが2006年の286トンから2007年には62トンへと大幅な輸出減となったことなどによります。

鉄鋼製タッピンねじは5.0%増の11,564トン，金額は11.0%増の119億8,700万円となり，2年続けて1万トン超の輸出量を示しました。

鉄鋼製その他ねじは4.3%増の18,582トン，金額9.4%増の344億4,300万円で，鉄鋼製その他ねじ付製品も18.4%増の2,485トン，金額9.2%増の23億6,600万円とそれぞれ増加。これに対して鉄鋼製ねじ無製品（ねじを切っていない製品）は1.7%減の7,791トン，金額では8.3%増の111億5,200万円に。

鉄鋼製リベットは5.4%増の3,119トンと初めて3千トン台に乗り，金額も14.4%増の47億1,700万円と大きく伸びました。

ワッシャ類は，鉄鋼製ばね座金が5.1%減の1,828トン，金額2.7%減の29億円余

となり、鉄鋼製平座金も数量は0.8%微減の14,316トンですが、金額では8.9%増の192億円余となっています。

次いで2008年1～6月上半期におけるねじ輸出では、前年同期比数量で9.7%増の157,984トン、金額も6.3%増の1,308億2,200万円と増加しています。しかし、2007年上半期実績では前年同期比数量で11.6%増、金額も16.7%増と2桁増を示していましたから、今年上半期の輸出状況を概観しますと昨年のような勢いが下がっているように感じられますし、下半期の動向が気になるところです。

2008年上半期の品目別の輸出状況では、数量で前年同期比2桁増となった品目として鉄鋼製ボルトが12.0%増の87,331トン、鉄鋼製ナットが10.5%増の37,112トン、ステンレスボルトが11.1%増の1,695トン、鉄鋼製その他ねじ付製品が11.6%増の1,352トン、鉄鋼製ねじ無製品が11.2%増の4,385トンとなっています。

鉄鋼製その他ねじは4.6%増で9,397トン、鉄鋼製リベットも9.3%増の1,679トンと増加しています。しかし、両品目とも金額では減少となっています。座金類も数量では増えています、金額ではばね・平座金とも減少しています。

ステンレスナットは26.2%減の372トンまで大幅減となり、鉄鋼製タッピンねじも4.9%減の5,575トンとなっています。

< 3 > ね じ の 輸 入

ねじの輸出は前項のように増えていますが、ねじの輸入についても増加しています。ねじ輸入は2006年までの8年間にわたり年々増加を辿り、2007年も増加して数量では前年比8.4%増の220,626トン、輸入額も同27.1%増の973億8,600万円と伸びています。輸入数量も輸入金額も年々増加している訳ですが、近年の輸入状況を実績値でみると、輸入数量の増加率に比べて輸入金額の増加率の方が高くなっている傾向がみられます。(表12)でみるように2003年の輸入数量を100とした場合に2007年は144.5の増加率ですが、これを輸入金額でみると2003年の100から2007年は227.8と極めて高い増加率となっています。つまりトン当たりの輸入価格が年々上昇しているということになりますが、特に2006年以降の輸入額の伸び率が大きくなっているのが注目されます。輸入ねじの割安感というイメージにも何れ変化がでてくるかも知れません。但しこれは輸入数量の98%を占める中国製品を含めたアジア製品についてのことであり、欧米からの輸入品とは違います。

また、2007年のねじ輸入は前年と同様に数量では中国を中心として、台湾、ベトナム、韓国、タイ、インドネシア、などのアジア諸国・地域から輸入され、中でもベトナムからの輸入は年々増伸して2007年は1万トンを超えている状況となっています。それでも数量ベースでは中国からの輸入比率が56.8%と前年と同じ過半数を

表10 ねじの輸入（品目別）

単位：重量トン，金額百万円（貿易統計より）

		2006年	2007年	増減%	2008.1～6
鉄鋼製ボルト	重量	78,081.0	84,579.1	+8.3	46,290.0
	金額	19,681.6	24,728.8	+25.6	13,709.9
ステンレスボルト	重量	10,943.2	13,308.5	+21.6	3,974.9
	金額	6,007.7	9,547.9	+58.9	2,600.9
鉄鋼製ナット	重量	27,666.6	28,290.5	+2.3	16,613.0
	金額	12,091.5	15,942.1	+31.8	8,406.7
ステンレスナット	重量	6,956.7	6,872.6	-1.2	1,910.4
	金額	5,044.2	6,961.3	+38.0	2,095.9
鉄鋼製タッピンねじ	重量	8,588.3	7,840.4	-8.7	3,727.7
	金額	2,229.4	2,010.4	-9.8	888.1
鉄鋼製木ねじ	重量	15,952.1	15,300.8	-4.1	7,636.8
	金額	3,236.7	3,619.5	+11.8	1,740.8
鉄鋼製その他のねじ	重量	22,622.0	26,781.0	+18.4	12,478.4
	金額	9,473.7	11,831.3	+24.9	5,641.5
鉄鋼製その他ねじ付品	重量	5,005.0	6,456.1	+29.0	3,433.7
	金額	2,591.4	3,212.1	+24.0	1,620.8
鉄鋼製リベット	重量	906.8	1,049.9	+15.8	415.3
	金額	1,013.2	1,435.6	+41.7	623.0
鉄鋼製ねじ無製品	重量	4,799.9	4,833.4	+0.7	2,043.8
	金額	5,667.3	5,863.1	+3.5	2,599.9
鉄鋼製コーチねじ	重量	1,573.6	1,782.6	+13.3	635.7
	金額	259.7	349.3	+34.5	104.8
鉄鋼製スクリーフック	重量	303.6	576.1	+89.8	320.0
	金額	163.6	270.8	+65.5	151.5
鉄鋼製ばね座金	重量	5,635.2	6,025.1	+6.9	3,254.3
	金額	1,438.8	1,569.1	+9.1	789.2
鉄鋼製平座金	重量	12,571.2	13,702.3	+9.0	7,112.1
	金額	4,837.0	6,350.4	+31.3	3,065.8
鉄鋼製コッタピン	重量	182.0	1,468.2	+806.7	842.7
	金額	268.2	546.6	+203.8	292.0
銅製品	重量	1,720.4	1,759.8	+2.3	1,038.7
	金額	2,598.2	3,148.3	+21.2	1,735.7
総計	重量	203,507.6	220,626.4	+8.4	111,727.5
	金額	76,602.2	97,386.6	+27.1	46,066.5

占めており，前年比8.6%増の124,382トンが輸入されました。第二位の台湾からの輸入は7.3%増の57,689トンで輸入比率は26.4%（前年は26.6%）となっています。第三位のねじ調達国となったベトナムからの輸入は25.9%増と伸び11,625トンの輸入で輸入比率も5.3%（前年4.6%）に上昇しています。

表11 ねじの輸入（主要国別，銅製品を除く）

単位：トン（貿易統計より）

	2006年	2007年	07/06増減%	国別比率	2008.1～6
総計	201,787.2	218,866.7	+8.5	100.0	110,688.8
米 国	1,482.0	1,758.9	+18.7	0.8	1,096.1
欧 州	2,442.7	2,569.7	+5.2	1.2	1,392.3
韓 国	8,289.4	9,154.0	+10.4	4.2	4,312.0
中 国	114,580.4	124,382.1	+8.6	56.8	65,563.4
台 湾	53,757.8	57,689.4	+7.3	26.4	27,508.5
タ イ	3,616.0	4,548.5	+25.8	2.1	2,452.7
シンガポール	23.9	43.5	+82.0	0.0	43.0
マレーシア	4,359.8	2,989.6	-31.4	1.4	614.2
インドネシア	3,206.4	3,356.0	+4.1	1.5	1,856.8
ベトナム	9,236.3	11,625.0	+25.9	5.3	5,414.4
他	792.5	750.0	-5.4	0.3	435.4

表12 ねじ輸入5年間の推移

（貿易統計より）

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
数量(トン)	152,644.9	174,704.8	188,626.7	203,507.6	220,626.4
%	100.0	114.5	123.6	133.3	144.5
金額(百万円)	42,748.1	50,146.4	60,584.0	76,602.2	97,386.6
%	100.0	117.3	141.7	179.2	227.8

次いで韓国からの輸入が10.4%増の9,154トンで輸入比率は4.2%，タイからの輸入が25.8%増の4,548トンで輸入比率2.1%，インドネシアからの輸入が4.7%増の3,356トン，などとなっています。マレーシアからの輸入は減少に。

欧米からの輸入も増加し，米国からは18.7%増の1,758トン（273億2,200万円）を輸入，欧米諸国からは5.2%増の2,569トン（69億8,200万円）を輸入しています。米国からの輸入比率は数量では0.8%ですが，輸入額では29.0%を占めており，欧州諸国からの輸入比率も数量では1.2%ですが，輸入額では7.4%と，それぞれ高い比率となっています。これに対して，アジアからの輸入比率は前述のように数量では97.9%ですが，輸入額でみると62.9%という状況です。

続いて品目別の輸入状況を見ると，2007年の輸入はステンレスナット，鉄鋼製タッピンねじ，鉄鋼製木ねじの3品目が減少しましたが，鉄鋼製ボルトほかすべての品目が増加しました。鉄鋼製ボルトは8.3%増の84,579トン，金額は25.6%増の247億2,800万円，鉄鋼製ナットも2.3%増の28,290トン，金額は31.8%増の159億4,200万円，ステンレスボルトは21.6%増の13,308トン，金額は58.9%増の95億4,700万円，ステンレスナットは1.2%減で6,872トン，金額は38.0%増の69億6,100万円。ステンレスボルト・ナットの輸入額が高くなっています。

鉄鋼製タッピンねじは8.7%減の7,840トンで金額も9.8%減の20億1,000万円、鉄鋼製木ねじは4.1%減の15,300トン、金額は11.8%増の36億1,900万円に。

鉄鋼製その他ねじは18.4%増の26,781トン、金額も24.9%増の118億3,100万円と伸び、鉄鋼製その他のねじ付製品も29.0%増の6,456トン、金額も24.0%増の32億1,200万円と増加。鉄鋼製リベットも15.8%増の1,049トン、金額で41.7%増の14億3,500万円と増加しています。

また、鉄鋼製コッタピン（コッター及びコッターピン）の輸入が一挙に8倍増の1,468トン（金額は2倍余の5億4,600万円）と大きな伸びを示しているのが注目されます。輸入先は中国と台湾からで数量で93%を占めています。

次いで2008年1～6月上半期のねじ輸入状況では、数量で前年同期比4.8%減の111,727トン、輸入額も同9.4%減の460億6,600万円となり、数量・金額ともに減少となりました。これはステンレスボルトおよびステンレスナットの輸入量が前年同期比それぞれ50%強の減少となったことと、主要品目のひとつである鉄鋼製その他ねじも同13.9%減となり、鉄鋼製タッピンねじ、鉄鋼製木ねじ、鉄鋼製リベット、それに鉄鋼製ねじ無製品なども減少したことによります。

鉄鋼製ボルトは6.8%増の46,290トン、金額は11.7%増の137億900万円、鉄鋼製ナットも14.4%増の16,613トン、金額は9.6%増の166億1,300万円と増加しましたが、これに対して、ステンレスボルトが55.0%減の3,974トン、金額も56.7%減の26億円に、ステンレスナットも59.2%減の1,910トン、金額も51.4%減の19億1,000万円へと大幅な減少となりました。

なお、鉄鋼製コッタピンが2007年に続いて輸入が増加しており、今年上半期では前年同期比25.5%増の842トン（金額は11.9%増の2億9,200万円）となっています。コッタピンによる脱落防止の機能が改めて見直されているのでしょうか。興味あるところです。

< 4 > ね じ の 流 通

ねじ流通を担う卸商社（問屋）、直需商社、小売店が加盟し組織している全国規模の商業者団体である日本ねじ商業協同組合連合会が毎年実施している「ねじ流通商社経営実態調査報告書」（平成18年度調査、平成18年4月1日～同19年3月31日）によると、平成18年度における年商高（推定）は4,888億3,300万円となり前年度比5.2%増で、2年連続のプラスとなりました（会員数366社）。1社平均年商高も前年度比9.6%増の13億3,300万円と同様に2年連続の増加を示した。

会員企業数は前年度の368社から2社減少となりましたが、従業員数では前年度比13.6%増の8,661人をかぞえ2年連続で増加しています。

表13 ねじ流通商社の推移（ねじ商連調査資料を参考に作成）

（販売高・百万円）

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
企業数	367	363	360	368	366
%	100.0	98.9	98.1	100.3	99.7
従業員数	8,004	7,487	7,297	7,626	8,661
%	100.0	93.5	91.2	95.3	108.2
販売高	410,971	397,644	390,990	464,859	488,833
%	100.0	96.8	95.1	113.1	118.9

平成18年度は鋳工業生産指数も107.1（平成12年＝100，季節調査済）と上昇し輸送機械，一般機械，精密機械，情報通信機械など各業種にわたって堅調な生産活動が行なわれた年であり，これに伴いねじ流通商社における取扱い販売高も好調に推移したことがうかがえます。好況時にはねじ製品も標準品の需要が増える傾向がみられますが，同調査で行っている品目別取扱比率の調査項目からもそうした動きが推測されます。平成18年度の品目別取扱比率では，市販用ねじ類（ワッシャ等含む）が43%を占め，特注品ねじ類（加工品）が33%，その他（ねじ類以外）が24%の割合となっており，前年度と比較してみると市販用ねじ類の取扱が2ポイント上昇（前年度41%）しています。特注品は1ポイント減，その他も2ポイント減となっています。しかし，付加価値の高い特殊ねじ類や独自開発ねじ製品などを指向した事業内容に各社注力していることに変わりはありません。

例えば，商業者としての流通業務に加えてメーカーとの同行販売による新需要の掘りおこしや，ユーザーへの提案型企業としての商社活動であるとか，ユーザーとの共同商品開発等々，流通の枠をこえた商社活動の領域の拡大が年々高まっているといえます。イワタボルトもこうした活動を予てより展開しているところですが，特色ある事業活動への取り組みが，ユーザーニーズの多様化のなかで流通商社にとって増々のぞまれてきているといえます。

しかし同年度も原油高に加え，ニッケルや銅，アルミなどの高騰によるステンレスを始めとしたねじ用材料の大幅な値上りが前年度より続き，ねじ製品の適正価格維持に並々ならぬ努力が払われ，ユーザー各方面からの納入価格値上げに対する理解を得るのに労を費やしました。これはその後も続いている課題となっています。ねじメーカーと流通商社との間では材料高騰の実情をお互いに認識していることから安定供給のために製品価格の値上も通っているようですが，この厳しい状況について最終使用者であるユーザーからの理解を求めたいものです。

なお，上記平成18年度の推定年商高4,888億3,300万円について，地区別の販売状況を見ると，東京地区が2,166億3,200万円で44.3%の比率となっており，次いで大

阪地区が1,502億6,300万円の30.7%、愛知地区が1,140億300万円で23.3%、神奈川地区が79億3,500万円で1.6%となっています。東京地区の販売高は前年度（41.6%）に比べ2.7ポイント上昇しており、大阪地区は前年度（32.4%）比1.7ポイント減、愛知地区は前年度（23.9%）比0.6ポイント減、神奈川地区も前年度（2.1%）比0.5ポイント減という状況。東京地区のみが前年度比上昇となっているのが特徴的です。

また、同調査では輸出額も調査しており、平成18年度のねじ輸出高は153億7,300万円で総販売高の4.5%の割合。前年度の輸出比率は4.8%の136億9,300万円で、平成18年度輸出比率では前年度より低下しましたが、輸出額では前年度比12.3%プラスとなっており、海外向けも増伸したことが示されています。

ねじ需要産業の動向（参考）

続いてねじ需要産業である自動車、工作機械、家電、デジタルカメラ、パソコンなどの生産状況を実数値で以下に示しました。

自動車の平成19年における生産台数は前年比1.0%増の1,157.9万台となり、平成14年以降前年比増で推移しています。車種別内訳では乗用車が前年比3.5%増の850.3万台、軽乗用車が6.3%減の144.1万台、トラックが3.2%減の106.7万台、軽トラックが12.8%減の45.3万台、バスは28.2%増の11.3万台。自動車生産台数の約7割を占める乗用車（普通乗用車・小型乗用車）とバスが増加しましたが、軽自動車は乗用車およびトラックともに減少し、普通トラックも減少したため、総生産台数では1.0%増にとどまっています。

平成20年1～6月上旬生産状況では、前年同期比6.0%増の6,046,640台と伸びており、車種別にみると普通乗用車が前年同期比14.2%増と伸びて3,144,645台、小

自動車

（台）

	乗用車	軽乗用車	トラック	軽トラック	バス	計
平成17年	7,607,982	1,408,753	1,145,612	546,185	76,313	10,784,845
18年	8,217,693	1,538,822	1,102,454	520,267	88,637	11,467,873
19年	8,503,196	1,441,441	1,067,483	453,587	113,670	11,579,377
20年 1月	733,590	108,521	84,985	37,406	11,230	975,732
2月	821,117	126,043	96,701	39,236	13,424	1,096,521
3月	818,435	132,494	99,295	39,070	13,496	1,102,790
4月	680,471	107,191	85,263	33,033	10,407	916,365
5月	686,233	106,406	84,831	35,438	10,161	923,069
6月	766,080	119,719	94,665	39,944	11,755	1,032,163
1～6月計	4,505,926	700,374	545,740	224,127	70,473	6,046,640

型乗用車は0.9%減の1,361,281台，軽乗用車11.2%減の700,374台，普通トラックは11.6%増の369,591台，小型トラック5.9%減の176,149台，軽トラックは1.7%増の224,127台，大型バスは28.7%増の6,351台，小型バスも42.5%増の64,122台となっています。

また7月の生産は前年同期比24.1%増の1,085,435台，8月は前年同期比11.0%減の768,099台という状況です。直近の速報値によると9月生産は1,054,213台で前月比37.2%増，前年同月比4.0%増となっています。

工作機械は六角穴付きボルトを主力に大量のねじ類を使用しますが，この工作機械の平成19年生産は106,282台で前年比5.9%増となり，前年に続いて10万台を超えました。モノづくりの生産工場における設備投資が積極的に行われたことを裏付けています。しかし，平成20年1～6月の生産は52,705台で前年同期比0.5%増と微増の状況となっていますが，下記の生産はどう推移するのか注目されます。

フォークリフトトラックは物流荷役作業などに必要不可欠の作業車両ですが平成

工作機械，他

(台)

	工 作 機 械	油圧・空圧機器	はん用内燃機関	フォークリフトトラック
平成17年	92,013	69,470,347	7,974,773	141,432
18年	100,356	83,220,381	7,932,923	155,309
19年	106,282	84,727,931	8,036,899	171,128
20年 1月	8,190	6,692,102	649,804	13,736
2月	9,002	7,595,348	701,515	15,745
3月	10,104	7,308,309	710,660	16,653
4月	8,219	7,636,043	646,859	14,725
5月	8,434	7,367,880	631,654	15,401
6月	8,756	7,108,899	645,589	16,966
1～6月計	52,705	43,708,581	3,986,081	93,226

家 電

	液 晶 テ レ ビ	プ ラ ズ マ テ レ ビ	電 気 洗 濯 機	電 気 冷 蔵 庫
平成17年	4,345,107台	816,626台	2,621千台	2,821千台
18年	5,968,171	1,097,248	2,558	2,783
19年	7,308,435	1,287,259	2,397	2,433
20年 1月	611,794	65,758	195	125
2月	677,957	79,332	209	148
3月	778,402	99,349	235	153
4月	640,314	90,832	205	158
5月	607,306	106,325	169	179
6月	688,837	94,131	184	201
1～6月計	4,004,610	535,727	1,197	964

デジタルカメラ，複写機など

(台)

	デジタルカメラ	ビデオカメラ	デジタル複写機	フルカラー複写機
平成17年	28,875,883	13,075,581	274,245	496,641
18年	37,150,161	12,524,360	204,253	274,487
19年	32,280,819	10,226,889	186,346	272,064
20年 1月	1,986,902	516,491	11,000	16,577
2月	2,244,026	741,122	11,154	19,956
3月	3,292,751	747,027	12,407	18,861
4月	3,853,323	884,323	10,343	15,350
5月	3,566,507	730,938	9,623	19,773
6月	3,361,048	670,236	10,661	18,213
1～6月計	18,304,557	4,290,137	65,188	108,730

パソコン，携帯電話ほか

	パソコン	携帯電話	DVDビデオ	カーナビ
平成17年	8,982,021台	47,086千台	2,232,443台	5,365,452台
18年	8,533,849	48,034	2,045,793	5,332,501
19年	8,353,041	45,891	1,486,150	5,747,060
20年 1月	672,229	3,420	139,948	464,087
2月	742,103	4,162	132,009	472,716
3月	868,800	4,183	184,810	512,373
4月	680,411	2,645	164,383	455,431
5月	532,073	3,125	151,428	528,236
6月	595,680	4,245	192,521	581,358
1～6月計	4,091,296	21,780	965,099	3,014,201

産業ロボットほか

(台)

	数値制御ロボット	プレイバックロボット	飲料自動販売機	セパレート型エアコン
平成17年	18,967	61,078	358,242	5,532,176
18年	22,882	56,681	339,782	5,858,623
19年	22,675	61,139	331,767	5,519,567
20年 1月	1,697	4,878	27,951	329,084
2月	1,885	5,659	37,482	396,727
3月	2,246	6,336	43,249	449,166
4月	1,678	5,496	33,894	614,338
5月	1,848	4,740	31,746	576,211
6月	2,207	5,479	30,116	676,147
1～6月計	11,561	32,588	204,438	3,041,673

19年の生産は171,128台で前年比10.2%増と伸び、今年1～6月も93,226台の生産で前年同期比14.5%増と引き続き2桁増を示しています。

薄型テレビの平成19年生産は、液晶テレビ、プラズマテレビともに大きな伸びを

示し、液晶テレビは前年比22.5%増の730万台強に、プラズマテレビも同17.3%増の128万台強となっています。今年1～6月生産は液晶が400万台を超えて前年同期比27.2%増、しかしプラズマは53.5万台で前年同期比1.7%減という状況。電気洗濯機や電気冷蔵庫の生産は減少の状況です。

デジタルカメラの平成19年生産は3,228万台で前年比13.1%減となりましたが、今年1～6月期は前年同期比35.5%増の1,830万台と増加に向っています。複写機はデジタル式、フルカラー機ともに生産は減少しています。

次にいろんな最新機能を付加して新機種が登場する携帯電話ですが、平成19年生産は前年比4.5%減の4,589万台となり、今年1～6月期も前年同期比7.5%減の2,178万台の生産状況です。パソコンの生産も平成19年生産は前年比2.1%減の835万台にとどまり、今年1～6月も前年同期比2.1%減の409万台に。パソコンはデスクトップ型に対してノート型の生産台数の割合が大きくなっていますが、ノート型は月毎に生産台数の増減が変化しています。

DVDビデオの生産は、平成19年が前年比27.4%減の148.6万台に落ち込みましたが、今年1～6月期の生産は96.5万台と前年同期比59.3%増という大幅な伸びを示しています。

カーナビゲーションは自動車生産に連動するわけですが平成19年生産は前年比7.8%増の574.7万台となり、今年1～6月期生産も301.4万台と前年同期比7.9%増となっています。

また、飲料自動販売機の平成19年の生産は前年比2.4%減の33万台余となりましたが、今年1～6月生産は前年同期比2.8%増の20万台強と増加。セパレート型エアコンの平成19年生産は552万台で前年比5.8%減、今夏も猛暑が続きましたが、今年1～6月生産も304万台で前年同期比10.9%減という状況です。

イワタボルトはあなたの会社に 最適締結システムを提供します

本社 〒141 8508 東京都品川区西五反田 2 32 4
☎03 (3493) 0211 (代表) FAX 03 (3493) 2096

五反田営業所 ☎03 (3493) 0221 (代表)

本社SOFI課 ☎03 (3493) 0251

本社海外課 ☎03 (3493) 0254

本社資材課 ☎03 (3493) 0252

品質管理課 ☎03 (3493) 0253

技術開発課 ☎03 (3493) 0214

栃木工場 〒329 2331 栃木県塩谷郡塩谷町大字田所字八汐1601 6
☎0287 (45) 1051 (代表) FAX 0287 (45) 1053

一関分室 〒021 0902 岩手県一関市萩荘字打ノ目 244 1
☎0191 (24) 4110 (代表) FAX 0191 (24) 4180

山形営業所 〒990 0073 山形県山形市大野目 4 2 60
☎023 (631) 6321 (代表) FAX 023 (631) 6322

仙台営業所 〒981 1224 宮城県名取市増田 6 3 46
☎022 (384) 0265 (代表) FAX 022 (384) 0694

福島営業所 〒963 0111 福島県郡山市安積町荒井字苜谷地41 1
☎024 (945) 9610 (代表) FAX 024 (945) 9605

宇都宮営業所 〒329 2331 栃木県塩谷郡塩谷町大字田所字八汐1601 6
☎0287 (45) 1421 (代表) FAX 0287 (45) 1422

栃木分室 〒321 3325 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台56 2ホンダ開発ビル
☎028 (677) 4721 (代表) FAX 028 (677) 4719

上田営業所 〒386 0005 長野県上田市古里 29 23
☎0268 (26) 1295 (代表) FAX 0268 (26) 1259

群馬営業所 〒370 3524 群馬県高崎市中央町 621 6
☎027 (372) 4361 (代表) FAX 027 (372) 4366

太田営業所 〒373 0841 群馬県太田市岩瀬川町 113 3
☎0276 (46) 1796 (代表) FAX 0276 (46) 1764

埼玉営業所 〒364 0013 埼玉県北本市中丸 4 72 番地
☎048 (591) 2212 (代表) FAX 048 (591) 2261

つくば営業所 〒305 0045 茨城県つくば市梅園 2 27 25
☎029 (855) 0764 (代表) FAX 029 (855) 0769

千葉営業所 〒292 0834 千葉県木更津市潮見 6 10
☎0438 (37) 3094 (代表) FAX 0438 (37) 3194

多摩営業所 〒196 0032 東京都昭島市郷地町 2 38 3
☎042 (541) 5534 (代表) FAX 042 (541) 6416

横浜営業所 〒236 0004 神奈川県横浜市金沢区福浦 2 13 38
☎045 (781) 4311 (代表) FAX 045 (781) 4361

厚木営業所 〒243 0203 神奈川県厚木市下荻野518番地
☎046 (241) 7021 (代表) FAX 046 (241) 7023

藤沢営業所 〒252 0804 神奈川県藤沢市湘南台 1 21 5
☎0466 (44) 1277 (代表) FAX 0466 (44) 8816

富士営業所 〒419 0201 静岡県富士市厚原 367 7
☎0545 (71) 3588 (代表) FAX 0545 (71) 2538

浜松営業所 〒430 0831 静岡県浜松市南区御給町 179 1
☎053 (425) 1118 (代表) FAX 053 (425) 9448

刈谷営業所 〒448 0803 愛知県刈谷市野田町新上納 29 1
☎0566 (24) 6321 (代表) FAX 0566 (24) 6326

名古屋営業所 〒452 0847 愛知県名古屋市西区野南町78番地
☎052 (502) 7761 (代表) FAX 052 (502) 7763

三重営業所 〒510 0874 三重県四日市市河原町藤市 917 1
☎059 (347) 1941 (代表) FAX 059 (347) 1867

大阪営業所 〒581 0822 大阪府八尾市高砂町 3 3 16
☎072 (923) 7910 (代表) FAX 072 (923) 7911

福岡営業所 〒824 0058 福岡県行橋市長木字帽子形 372 1
☎0930 (23) 9444 (代表) FAX 0930 (23) 9451

久留米営業所 〒839 0808 福岡県久留米市東合川新町 11 13
☎0942 (45) 3451 (代表) FAX 0942 (45) 3452

IWATA BOLT HONG KONG CO., LTD.
UNIT B, 1/F, KOON WAH MIRROR GROUP
BUILDING, NO.2 YUEN SHUN CIRCUIT, YUEN
CHAU KOK, SHATIN, N.T. HONG KONG.
☎852 2649 9110 FAX 852 2646 6119

IWATA BOLT(SHANGHAI) CO., LTD.
PART B, NO.39 BUILDING, 461 HUA JING ROAD,
SHANGHAI WAIGAOQIAO FREE TRADE ZONE,
P. R. CHINA ZIP 200131
☎86 21 5046 3037 FAX 86 21 5046 3038

IWATA BOLT(SHENZHEN) CO., LTD.
NO.001-12 INDUSTRIAL ESTATE ZONE, TONG
FU YU TANG XIA YONG, SONG GANG STREET,
BAO AN DISTRICT, SHEN ZHEN CITY, GUANG
DONG PROVINCE, CHINA ZIP 518105
☎86 755 2714 0442 FAX 86 755 2714 0443

IWATA BOLT TRADING(SHENZHEN) CO., LTD.
UNIT A-301 XINGDA LOGISTICS BUILDING
NO.3, LANHUA ROAD FUTIAN FREE TRADE
ZONE SHENZHEN CHINA P.C. NO.518038
☎86 755 6130 1077 FAX 86 755 6130 1080

IWATA BOLT(THAILAND) CO., LTD.
41/74-75UNIT F5-F6, BANGNA-TRAD RD. KM.
16.5, T. BANGCHALONG, A. BANGPLEE,
SAMUTPRAKARN 10540 THAILAND
☎66 2 740 7860 FAX 66 2 740 7863

IWATA BOLT(S)PTE. LTD.
NO.10 BENOI CRESCENT JURONG TOWN
SINGAPORE 629973
☎65 6266 3794-3795 FAX 65 6266 2115

IBK FASTENER MALAYSIA SDN. BHD
No.2, JALAN PJS 11/3 BANDAR SUNWAY
46510 PETALING JAYA SELANGOR,MALAYSIA
☎60 3 56380215 FAX 60 3 56380218

IWATA BOLT USA INC. ロサンゼルス工場
7131 ORANGWOOD AVE. GARDEN GROVE,
CALIFORNIA 92841-1409 USA
☎1 714 897 0800 FAX.1 714 897 0888

IWATA BOLT USA INC. ロサンゼルス支店
13128 A-2 IMPERIAL HWY SANTA FE SPRINGS.
CALIFORNIA 90670 USA
☎1 562 407 3111 FAX.1 562 407 3555

IWATA BOLT USA INC. アトランタ支店
5324 GA HWY 85 SUITE 900
FOREST PARK. GEORGIA 30297 USA
☎1 404 762 8404 FAX.1 404 669 9606

IWATA BOLT USA INC. オハイオ支店
7446 WEBSTER STREET DAYTON, OHIO 45414
USA
☎1 937 454 1277 FAX.1 937 454 1480

IWATA BOLT USA INC. ナッシュビル支店
401 AIRPARK CENTER DRIVE NASHVILLE, TN
37217 USA
☎1 615 365 1201 FAX.1 615 365 1206

IWATA BOLT USA INC. カナダ支店
1199 RINGWELL DRIVE, UNIT B, NEWMARKET,
ONTARIO L3Y 7V1 CANADA
☎1 905 953 9433 FAX.1 905 953 0167

IWATA BOLT MEXICANA, S.A. DE C.V.
PROL. MILO NO. 610 COL. LA NOGALERA
GUADALAJARA. JALISCO C.P. 44470
☎52 33 3666 2370 FAX.52 33 3666 2373

— ISO14001認証企業・ISO9001認証企業・ISO/IEC17025認定企業 — URL <http://www.iwatabolt.co.jp/> —

イワタボルト株式会社